

猿江恩賜公園は3年前に大規模な工事が行われた（Vol.64参照）。工事の結果がどうであったか、そしてより良くするためにどうすべきなのかを考えるために、東京都が工後に**7年間モニタリングを行うことになっている**。工事中も生徒と一緒にさまざまな意見を言わせてもらったが、さらになんと、工後に年3回行われる協議会に、**今年度から生徒も参加させていただくことになった**（本当に有難うございます！）。

会議の際、鳥班のハルアキやミフミたちが「こういう樹を植えたらもっと鳥が来るようになるはず」と意見書を提出。すると、次の会議では「**科学技術高校の意見をもとに植える樹を選定しました**」と当たり前のように話が進んでいくではないか！こ、高校生の意見が採用されて生物に配慮した公園が出来上がっていく…なんてすごい体験だ！

よりよい公園造りのために大人たちが真剣に話し合っている姿を見させてもらうだけでも貴重な経験だ。さらに意見まで言わせてもらって、本当に有難い。生物班が行っている猿江公園の生物調査が、貴重なデータとして信頼されている証拠でもあると思う。地味ではあるけれど、地道にコツコツ生物の調査を続けていけば、地域に貢献することができるのだ。高校生にだってできることはまだまだある。



3/5



11/25

協議会で意見を述べるハルアキ（左）とミフミ（右）
東京都建設局や猿江恩賜公園サービスセンターの方々、環境調査を行う専門の調査員の方々が集まる会議に出席した。猿江公園が利用者にとって利用しやすく、そして生き物たちにとって住みやすくなるためにはどうすれば良いか、真剣に話し合った。生徒たちは、高校生の視点で意見を言わせていただき、そのいくつかは実現していただいている。



猿江公園サービスセンターと生徒が協力してカエルスロープを作っている様子 2/18

会議で、カエルが池のふちを登りにくいと指摘。絶壁になっている場所にスロープを作ること。ヒキガエルなどが産卵時に使ったり、オタマジャクシが陸に上がる時に使うことが期待される。右写真が完成した様子。「日本庭園」としての景観を崩さないように、人にも生き物にも優しい設計が求められた。



鳥班が巣箱を設置している様子 3/26
研究計画を提出し、巣箱を設置した。猿江の方々は高校生の調査にいつも協力してくださり本当に有難い。